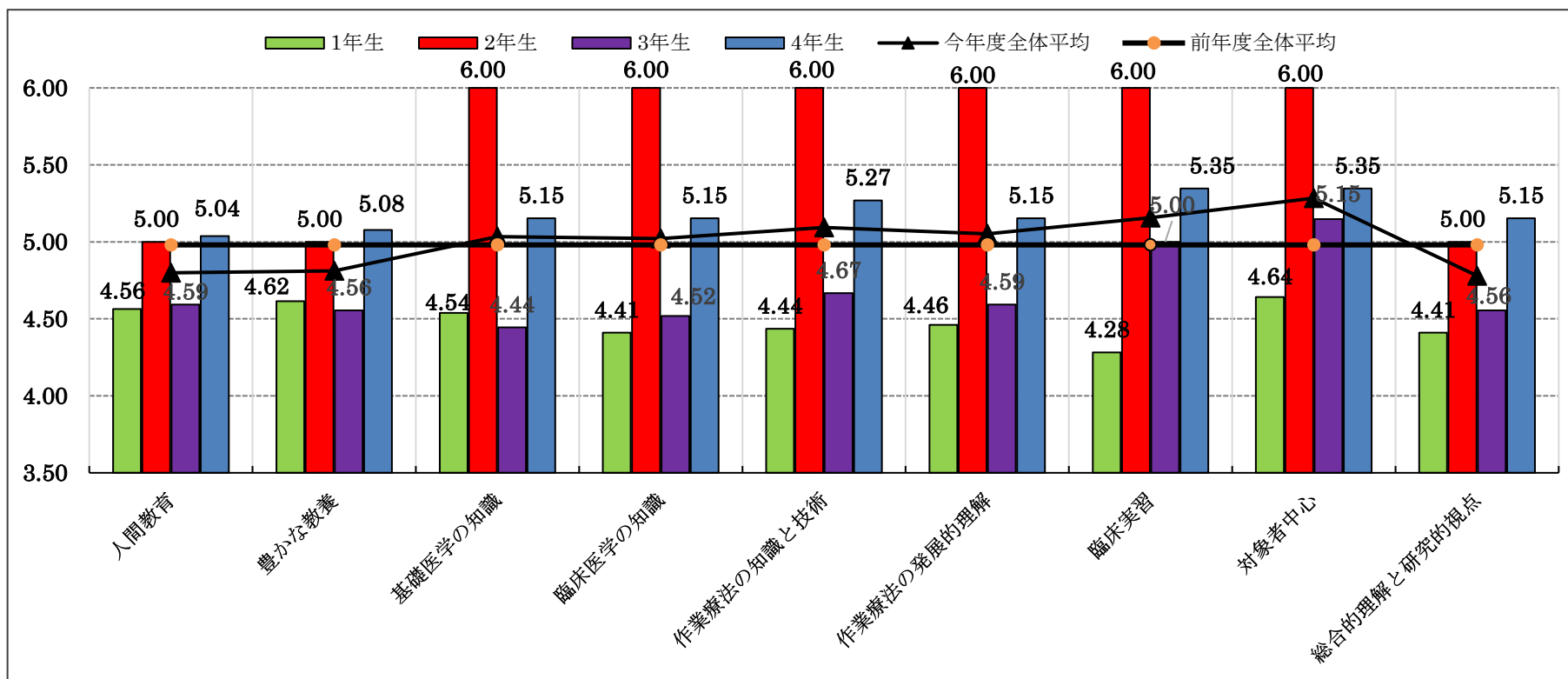


2022年度 教育課程編成・実施の方針に照らした教育の取組の適切性に関する検証

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年生 39名（95.1%）、2年生 1名（2.5%）、3年生 27名（62.8%）、4年生 26名（83.9%）。
- ・全体的な傾向・充足度合：前年度に引き続き、今年度の学習においても COVID-19 の影響により、各学年に準備された臨床の場の経験に制約があり、特に1年生は現場での経験を十分に得ることができなかったことから、他の学年に比して低い値となった。3・4年生は前年度以前の実習経験に応じた値となった。また、2年生の回答が少ないため正確な分析は難しいが、「豊かな教養」や「基礎医学」などで1年生より3年生の値が低かった。これは学年が上がることによって求められる教養や基礎知識の量が拡大することで、学生自身がさらなる教養を身に付け、学習していく必要性を感じた結果と考えられる。しかし、4年生では十分な学習・経験により、値が1年生より大きく向上した。
- ・前年度との比較：学年によって回答率に差があり、今年度の全体平均との単純な比較はできないが、折れ線グラフの形状より概ね前年度と同水準か向上しているものの、「人間教育」と「豊かな教養」「総合的理解と研究的視点」がやや下回ったことから、この点は次年度に向けた課題としたい。



理学療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年生入学時47名、終了時40名（入学時97.9%、終了時83.3%）、2年生データ30名（71.4%）、3年生データ8名（16.3%）、4年生14名（30.4%）であり、3・4年生、特に3年生のアンケートの回収率は低調に終わった。
- ・全体的な傾向・充足度合：「地域と予防医学の習得」、「臨床実習での実践力」など、より高度専門知識が問われる項目について3・4年生が1・2年生よりポイントの上昇が認められることから、教育課程の編集・実施の方針はほぼ適切に満たされていることがうかがわれる。3年生の「病態や障害の理解と専門性」、「基礎力の追求」に関しては、今回の調査期間が臨床実習を終えた時期であることからポイントが4年生よりも高くなったことが考えられた。また、過去のデータから本専攻では、学年が上がるにしたがってポイントが高くなる傾向にあるため、本結果において3年生および4年生の回収率が低いことが本結果に影響を及ぼしたことも考えられた。そのため、適切な判断および検証が困難であるため、次年度以降の回答率を上げ、分析に生かしていきたい。
- ・前年度との比較：前年度との比較では、すべての項目で前年度よりも低値を示した。昨年度までは、新型コロナウイルスの影響により、オンライン授業が多い状況であった。そのため、自らの経験を振り返ることにより気づきの場が少なかったことが推測できる。一方、今年度はほぼ対面形式での講義であり、教員の関与により多くの気づきや学びが得られたことで、求められる人間像の高さに気づき、自己評価が低くなったことが考えられた。また、3・4年生の回収率が低いことに本結果は影響を受けた可能性もある。次年度以降の回答率を上げ、分析に生かしていきたい。

